

Title	館稔著 人口分析の方法
Sub Title	
Author	安川, 正彬
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1963
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.56, No.12 (1963. 12) ,p.1247(93)-
JaLC DOI	10.14991/001.19631201-0093
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19631201-0093">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19631201-0093</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

くれると思うが、ともかくわれわれは、この書によって、わが国における戦後の外国労働運動史にかんする研究が一段とゆたかにされたことを著者とともに喜びたい。

(青木書店・一九六三年十月刊・A5・四三〇頁・一三〇〇円)

——一九六三・一〇・二〇——

### 次号目次

#### 論 説

二部門モデルにおける分配率の決定……………富田重夫

二部門経済モデルにおける均衡成長について

——展望と一つの積極的分析——……………川又邦雄

ヒルファディングの株式会社論にかんする一考察

——とくに信用論との関連において——……………飯田裕康

#### 資 料

第一インターナショナルにかんする一史料(その二)

——総務委員会について——……………飯田 鼎

#### 書 評

C・N・ワードパーキンス著

『一八四七年の商業恐慌』……………寺尾 誠

#### 新刊紹介

## 新刊紹介

館 蔵 著

### 『人口分析の方法』

人口を分析する、とひと口にいても、いろいろの局面からの接近があって、その範囲はひろい。こんにち人口を研究する学問のことをデモグラフィ(Demography)という名称でよんでいるが、これには社会学からの接近も、経済学からの接近も、すべてこれらを包括している。

しかし、人口そのものを直視するとき、そこにあるものは、生れたての赤子から、百歳を越えた老人までの男女の集団(静態)である。年々生まれ年々死んだ数(動態)が、この人口につけ加えられて殖えていくという新陳代謝が繰り返えされている。子供を生む年齢の婦人が多ければ、多くの子供が生まれるであろうし、老人が多ければ死ぬ数は多いであろう。他の事情がひとしきり、このことは正しい。

新刊紹介

このように人口には、人口の基本集団の状態如何によって、人口増加の多少が左右される。ここに人口そのものの分析方法が要請されてくる。あたかもそれは、かつてポリテイカル・イコノミーとよばれた経済学が、やがて均衡体系によってまとめられ、価格中心の分析がおこなわれるようになって、イコノミックスと改名し、独自の分析方法をもつようになったのと同じである。

ポリテイカル・イコノミーの当時に、人口は経済学の体系のなかで重きをなしたが、イコノミックスの時代に移って、人口は経済学の映像の外に追いやられた。ここに人口独自の分析方法が発達する。時の機運が育成されたといつてよいだろう。

人口を分析する基本となるものは、いまここへのべた人口の分析方法を駆使するかどうかにかかっている。統計を媒介として人口と経済・社会を分析するとき、人口の時間的・地域的分析を通じてそこにあらわれる結果の比較は、そのまま経済や社会の時間的・地域的相違を反映しているのであって、それなればこそ、人口分析は社会科学の種々の分析の基盤におかれる重要な研究なのである。

このような意味で、人口分析の方法をまとめた書物が要望されるが、これが意外に少ない。本書は著者が多年の人口研究を通じて選り抜いた人口分析の基本方法を、高級テキスト風にまとめたものであって、専門に人口を学ぶ学徒にとって好個の座右の書となるであろう。この種の書物には基本的な方法の解説のほか、実際の分析の筋道をしめした方法の適用の仕方が知りたいが、さいわい著者によって別個に用意され、本書の続編として刊行されることである(本書はしきき)。これを二部作として待ちこがれるのはひとりわたくしばかりではあるまい。なお、とくに本書は各所にあげられている文献目録が貴重である。(古今書院・形成選書・昭和三八年九月刊・小B6・二七六頁・六八〇円)

—安川 正彬—

両角良彦/御園生 等  
古藤利久三/正田 彬  
千種義人著

### 『産業体制の再編成』

「日本経済は貿易自由化の段階を迎えて、

九三(二四七)